

ご挨拶

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当財団は、地球環境問題の解決に向け貢献された方々に地球環境国際賞「ブループラネット賞」を贈り称えることを通じて、広く一般の方々の地球環境問題への意識啓発に努めてまいりましたが、2006年12月に“地球環境問題を考える懇談会”を発足させ、3年以上にわたり、各界を代表いたします当財団の理事・評議員の叡智を結集し、地球環境問題をはじめとする人類全般の課題に關して議論を重ねてまいりました。

その議論をまとめ、昨年5月に21世紀の新たな社会像のコンセプトを提示した最終報告書「生存の条件－生命力溢れる太陽エネルギー社会へ」を、そして8月にはより読みやすいものと「生存の条件－生命力溢れる地球の回復」を刊行いたしました。また、英語版を作成し、広く世界に向けて地球環境問題の解決と、持続可能な社会を構築するための問いかけを発信しました。

それらに対し、国内外から共感したとの声を多数いただきましたことから、提示しましたコンセプトを、さらにより多くの方々にご理解いただくために、今回「生存の条件」シンポジウムを開催することにいたしました。ご寄稿いただいた歴代ブループラネット賞受賞者の中から3名をお招きし、地球環境問題への思いをお話いただくとともに、パネルディスカッションで提示しましたコンセプトについてご討議をお願いすることとしました。

つきましてはご多忙の折とは存じますが、ご来場下さいますようお願い申し上げます。

敬 具

平成 23 年 5 月
公益財団法人 旭硝子財団
理事長 田中 鐵二

『生存の条件』シンポジウム Conditions for Survival Symposium

日 時： 平成 23 年 7 月 7 日 (木曜日)
14:00 ~ 19:30 (受付 13:30 ~)
会 場： 経団連会館 (東京都千代田区大手町 1-3-2)
シンポジウム：経団連ホール
懇親会：国際会議場

Date&Time: July 7, 2011
14:00 - 19:30 (Admittance from 13:30)
Venue: Keidanren Kaikan (1-3-2 Otemachi Chiyoda-ku)
Symposium: Keidanren Hall
Party: International Conference Hall

プログラム / PROGRAM

14:00 ~ 14:15 映像, 主催者挨拶
Short Film Presentation, Remarks

講 演 / Lecture

- 14:15 ~ 14:45 ◆レスター・R・ブラウン氏
瀬戸際に立つ世界
◆Mr. Lester R. Brown
World on the Edge
- 14:45 ~ 15:15 ◆ノーマン・マイアーズ博士
「初めて」のことばかり
◆Dr. Norman Myers
A Time of "Firsts"
- 15:15 ~ 15:45 ◆エミル・サリム博士
かけがえのない地球上の生命と暮らしを取り戻すには
◆Dr. Emil Salim
The Ecological Approach towards
Restoring Life on our Only One Earth
- 15:45 ~ 16:00 休憩 / Intermission

パネルディスカッション / Panel Discussion

生存の条件：新しい時代への発想転換
Conditions for Survival: New Ideas for a New Age

- 16:00 ~ 16:20 中国語版『誰惹了地球』出版にあたって
With the publication of "Conditions for Survival" Chinese version
- 16:20 ~ 17:30 コーディネーター 森島 昭夫教授
Coordinated by Prof. Akio Morishima
- 17:30 ~ 17:50 休憩 / Intermission
- 懇親会 / Party 17:50 ~ 19:30

講師・コーディネータープロフィール

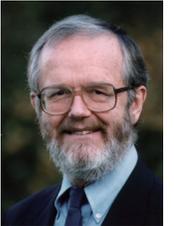
レスター・R・ブラウン氏 (米国)
アースポリシー研究所会長 兼 上級研究員

1934年米国生まれ。1959年メリーランド大学農業経済学修士号取得。1959年米国農務省入省。1974年地球環境問題の分析を専門とするワールドウォッチ研究所設立。地球環境問題に関する全世界のデータを体系的に整理し、毎年「地球白書」として刊行。2001年環境的にも持続可能な経済を達成するためのロードマップ作りのため Earth Policy 研究所を設立。『プラン B』を著した。



ノーマン・マイアーズ博士 (英国)
オックスフォード大学グリーンカレッジ・サイド
ビジネススクールフェロー

1934年英国生まれ。1958年オックスフォード大学卒業。1973年カリフォルニア大学パークレイ校博士号取得。アフリカ野生動物関連のライター、写真家、レクチャーラーとして活躍の後、種の大量絶滅や熱帯雨林の減少を最初に警告。1980年代に生物多様性ホットスポットの理論を提唱し、その後の保全活動に多大な影響を与えた。



エミル・サリム博士 (インドネシア)
インドネシア大統領諮問委員会議長
インドネシア大学名誉教授

1930年インドネシア生まれ。1958年インドネシア大学経済学部卒業。1959年カリフォルニア大学パークレイ校経済学博士号取得。1972年インドネシア大学経済学部教授。1978年インドネシア初の環境大臣に就任。環境行政に持続可能な社会の構築を目指した先駆性は国際的に高い評価を受け、以後国連の場で活躍。アジアの発展途上国を代表し、地球環境保全に向けリーダーシップを発揮し国際的に貢献。



森島 昭夫教授
名古屋大学名誉教授

日本における環境法研究の先駆者、第一人者。東京大学卒業後、名古屋大学・上智大学で民法・環境法の研究教育にあたり、国内外で活躍。若い研究者として公害訴訟に関与した社会的な経験に基づいて、その後研究者として、あるいは政府の審議会委員として、日本の環境法、消費者保護法の発展に大きく貢献した。1998年から2004年まで中央環境審議会会長、環境科学学会会長、環境法政策学会会長を務めた。現在、日本環境協会会長。

